

はなのいろは うつりにけりな

第7期 OG 菊盛 真衣

大阪での生活もそろそろ2年が過ぎようとしており、身の回りの色々なことがやっと軌道に乗ってきたように思います。そんな気持ちの慣れからでしょうか、昨年あたりから、時々ナチュラルに「なんでやねん」とゼミ生にツッコむ自分に恐怖を覚えております。しかし、その発音が悪いのか、アクセントが変なのか、関西ネイティブたちには苦笑されるレベルの粗末な出来栄えのようです。まだまだ精進が必要です。

さて今年度で思い出深いのは、人生初の英語での講義ですね。ヨーロッパやアジアから来た留学生（日本語はほとんど喋れない）や留学経験のある英語ペラペラの日本人学生を相手に、留学経験のない純ジャパの私が英語でマーケティングを教えるという、冗談のような怪談です。最初は真面目に準備をして、台本のようなものまで準備していましたが、でも、いざ授業が始まると、台本の文字が見えない！自分がどこを喋っているのか分からない！台本のセリフと映写されとるパワーポイントが合っていないやないか！と、トラブル連発、発狂寸前。そもそも90分喋るための台本づくりに多大な時間を要するのでコスパ悪すぎでした。というわけで、台本作戦はすぐに中止しました。そこからは、学生同士で議論させたり、プレゼンしてもらったりして、それに私が質問やコメントをするというインタラクティブ（笑）な授業を実行しました。これは結構上手く行っていたはず。でも、自分の拙い英語力が原因で、学生との会話のキャッチボールは1~2往復が限界。学生たちよ、こんな先生でごめんね！と内心で謝りながら、何とか半期15回の授業を無事に（?!）終わりました。終わる頃には、学生も結構適当な英語で喋っているということに気づ



気持ちに若干の余裕が見える?! 日本語で講義中の著者。

き、英語がうまく話せないという恥ずかしさからも解放され、もはや日本語を交えて喋るほどの持ち前の適当さを発揮したのです。この経験を通して度胸はつきましたが、英語能力に大きな向上は見られなかった気がします。無念！

それともう1つ思い出深いのは、第1期生として迎えたゼミ生の中から大学院に進学する学生が出たことです。このまま私の下でマーケティングを研究したいと申し出てくれ、嬉しいようなプレッシャーのような。後輩の面倒見も良く、情熱があり、アイデアを出すことを楽しんでやってくれているような子なので、その背中を支えることが私の役目のような気がしています。私もまだまだ発展途上の未熟者ですので、果たして弟子を良い方向に導いてあげられるのか全く自信はありませんが、出来ることはこれまでと変わらずただ1つ。求められれば寄り添って話を聞き、一緒にアイデアを出し合うことだと思っています。教え教えられるながら、半学半教のスタイルで楽しい研究生生活を送っていきたいです。

さて今回のタイトルは、小野小町が歌った百人一首「花の色は うつりにけりな いたづらに わが身世にふる なかめせしまに」です。この歌、自分の美貌が衰えて老けたことを悲しむ歌のイメージが強いですが、今回は時間が経つのはなんと早いのだろうというシンプルな驚きや寂しさに注目しております。今年でゼミが始まって2年が過ぎます。つまり、今年の春は、私にとって初めて卒業生を送り出すこととなります。初めてのゼミ生ということで思い入れもありましたし、そうした自分の気持ちに彼らが応えて活躍してくれたという喜びもありました。様々な記憶をぼんやりと思い起こしながら、2年という長いはずの月日が風のように過ぎ去ってしまったことに対する驚きと何とも言えない寂しさが心に浮かんできたわけです。とはいえ、毎年のことながら春は別れと出会いの季節。1期生の卒業を惜しみながらも、英語に強みを持つ3期生を積極的に迎え入れたので、今年は自分とゼミの英語レベルの向上を同時に目指していきたいと思っています。日々是精進！最後に、今年度のOB会には校務の関係で出席出来ませんが、次回また小野ゼミの皆様にお会いできるのを楽しみにしております。盛会を祈念しております！



3期生がゼミに新たに加わり、2019年もますます盛り上がりやっています！（著者は前から2列目中央）